

令和 8 年千葉市教育委員会会議
第 4 回定例会会議録

千葉市教育委員会

令和 8 年千葉市教育委員会会議第 4 回定例会会議録

日時 令和 8 年 4 月 1 5 日（水）

午後 2 時 3 0 分開会

午後 3 時 3 3 分閉会

場所 教育委員会室

出席委員	教	育	長	鶴岡	克彦
	委		員	小西	朱見
	委		員	大山	尋美
	委		員	大濱	洋一
	委		員	杉山	浩
	委		員	磯邊	聡

出席職員	教	育	次	長	中島	千恵	教	育	指	導	課	長	川島	政美														
	教	育	総	務	部	長	西	公厚	教	育	支	援	課	長	高橋	泰雄												
	学	校	教	育	部	長	川名	正雄	保	健	体	育	課	長	熊谷	正明												
	生	涯	学	習	部	長	大塚	暁	教	育	セ	ン	タ	ー	所	長	渡辺	佳代子										
	学校教育部参事（教育改革推進課長事務取扱）						伊藤	拓	養	護	教	育	セ	ン	タ	ー	所	長	白井	貴								
	中	央	図	書	館	長	佐久間	仁央	生	涯	学	習	振	興	課	長	西森	照泰										
	総	務	課	長	鴫田	昌奈	鴫田	昌奈	生	涯	学	習	振	興	課	放	課	後	子	ども	対	策	担	当	課	長	高桑	太綱
	企	画	課	長	千脇	卓也	千脇	卓也	文	化	財	課	長	高橋	清和													
	教	育	職	員	課	長	久保	哲	中	央	図	書	館	管	理	課	長	鈴木	孝之									
	教	育	給	与	課	長	吉野	嘉人	千	葉	高	等	学	校	長	藤井	大											
	学	校	施	設	課	長	大久保	智之	稲	毛	高	等	学	校	長	大野	大輔											
	学	事	課	長	小林	公人	小林	公人	総	務	課	総	括	主	幹	佐久間	暁子											

書	記	総	務	課	総	務	班	主	査	中	台	陽	一	郎	総	務	課	主	任	主	事	小	川	和	也
---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---

- 1 開会
教育長より開会を宣言
- 2 会議の成立
全員の委員の出席により会議成立
- 3 会議録署名人の指名
鶴岡教育長より大濱委員を指名
- 4 会期の決定
令和8年4月15日（1日間）とすることで全委員異議なく決定
- 5 会議録の承認
令和7年第10回定例会の会議録を全委員異議なく承認
- 6 議事日程の決定
議事日程を全委員異議なく決定
- 7 議事の概要

(1) 報告事項

報告事項(1) 千葉市立幕張若葉小学校の開校について

千脇企画課長より報告があった。

報告事項(2) 教育だよりちばの刊行終了について

千脇企画課長より報告があった。

報告事項(3) 令和8年4月1日付け教職員の人事の概要について

久保教育職員課長より報告があった。

報告事項(4) 令和7年度末における市立高等学校の進路状況について

藤井千葉高等学校長及び大野稲毛高等学校長より報告があった。

(2) 議決事項

議案第24号 千葉市子ども読書活動推進計画（第5次）の策定について

鈴木中央図書館管理課長より説明があった後、全委員異議なく、原案どおり可決した。

(3) 発言の要旨

報告事項(1) 千葉市立幕張若葉小学校の開校について

鶴岡教育長 報告事項(1)「千葉市立幕張若葉小学校の開校について」、企画課長、説明をお願いします。

千脇企画課長 「千葉市立幕張若葉小学校の開校について」、ご報告します。

4月8日に開校式、10日に入学式を無事に終えましたので報告します。なお、幕張若葉小学校の開校により、令和8年度の

本市の小学校は全108校となっています。

議案書の1ページをご覧ください。「1 学校の概要」(5) 学校規模に記載のとおり、開校時点では全11学級・309人で学校生活をスタートしています。1・2年生で全児童の半数以上となる非常ににぎやかな学校となっています。

令和8年2月に竣工したばかりのB4街区からも、多くの児童が通学しておりますし、2年後の令和10年3月にはB6街区のタワーマンションの竣工も予定されています。今後、急激な児童数・学級数の増加を想定しており、令和15年度前後に最大約1,100人となることを見込んでいます。子どもたちの良好な教育環境を確保し続けられるよう、数年先の見通しをしっかりとって、毎年度の変化に適切に対応して参ります。

2ページをご覧ください。開校式は4月8日に記載のとおり開催し、教育長が開校宣言をするとともに、市長や市議会議長をはじめ地域の関係者も来賓としてお越しいただき、多くの祝福のお言葉をいただきました。

また、開校式には多くの報道機関が取材に訪れ、大きな注目を浴びていることを実感しました。3月26日の記者発表以降、多くの報道をいただいております。把握できている範囲ではありますが、報道日等をまとめましたのでご報告します。

さらに、開校から2日後の10日には、全校児童約300人の3分の1を占める98人の新入生を迎え、入学式を挙行了しました。多くの報道機関が入った開校式とは雰囲気が少し変わり、入学式では新入生の保護者や地域の来賓の方々に暖かく見守っていただきながら、和やかに新入生を迎えることができました。

教育委員会では学校設置の有無から始まって計画、開校に向けた準備と10年以上にわたって新設校設置の業務を行ってきました。無事、開校し子どもたちの声が溢れている様子を大変喜ばしく思っています。開校したとはいえ、児童数の急増など検討事項の多い学校ですので、今後も可能な限り支援して参りたいと思います。

鶴岡教育長 審議に移りますが、質問等を含め、何かございますか。

鶴岡教育長 私は出席させていただいたので、開校式並びに入学式共に、いつ練習したのだろうというぐらいの歌や、6年生の歓迎の言葉であったり、ちょっとした寸劇であったり、おそらく旧打瀬小学校の児童が少しずつ準備を進めてきたと思うのですが、本当

に温かい雰囲気で開催式並びに入学式を迎えておりましたので、報告します。

報告事項(2) 教育だよりちばの刊行終了について

鶴岡教育長 報告事項(2)「教育だよりちばの刊行終了について」、企画課長、説明をお願いします。

千脇企画課長 「教育だよりちばの刊行終了について」、ご報告します。

参考資料1ページをご覧ください。本号には、表紙にイオンモール幕張新都心で開催された絵画展の様子を採用するなど、開府900年記念事業に関する内容をふんだんに盛り込んでおり、開府900年記念号としています。

8ページをご覧ください。本号は開府900年記念号と同時に、最終号となりました。

千葉市の教育広報誌として平成4年の創刊以来、34年間、142号にわたり教育に関する情報や子どもたちの教育活動の様子をお伝えして参りましたが、近年の情報伝達手段の変化やペーパーレス化といった社会情勢を踏まえ、刊行を終了することとしました。

今後は、ホームページやSNSなどによる情報発信をさらに充実させて参ります。

鶴岡教育長 審議に移りますが、質問等を含め、何かございますか。

小西委員 ご説明ありがとうございます。

保護者としても毎回楽しみに拝見させていただいていたので、無くなるのが個人的にはとても寂しいです。

今後、市ホームページやSNSで情報発信と記載があるのですが、保護者からホームページにアクセスするという場合は、本当に少ないと思いますので、例えば保護者の方に自動的に配信されるような「すぐーる」であるとか、できるだけ多くの保護者が自然に目にできるような形で教育だよりちばに代わるものが配信されるようにお願いしたいと思います。

また、今までは市の保育園などにも教育だよりちばが置かれていることがあり、保育園の保護者の方も手に取って見られていたかと思うので、こども未来局等とも連携をして、広く保育園に通うお子さんや保護者の方にも自然に見ただけのような形で、配信を検討していただけると嬉しいなと思います。

千脇企画課長 現在、千葉市の公式LINE等SNSの活用を検討してお

ります。公式LINE等への登録については、すぐーる等を活用して登録の促しを行っていきたいと思います。

各SNSやすぐーる、各課等の連携につきましては、今後検討してきたいと思います。

報告事項(3) 令和8年4月1日付け教職員の人事の概要について

鶴岡教育長 報告事項(3)「令和8年4月1日付け教職員の人事の概要について」、教育職員課長、説明をお願いします。

久保教育職員課長 報告事項(3) 令和8年4月1日付け教職員の人事の概要について、報告します。議案書の5ページをご覧ください。

管理職人事については、3月2日開催の教育委員会会議第1回臨時会で議決をいただきました。3月13日に各学校へ内示を行い、27日に辞令交付を実施し、4月1日には、異動者がそれぞれ異動先に着任しました。

各学校では、新年度の体制になったところですが、改めて、人事の概要について報告します。

まず、「1 異動総数」ですが、小・中・高・特別支援学校合わせて955人となっています。

また、「2 新規採用者数」ですが、小学校69人、中学校66人、高等学校4人、特別支援学校9人の計148人で、昨年度より35人減少しています。その他に、養護教諭9人、事務職員6人、栄養職員1人、合わせて16人を新たに採用しました。

次に、「3 管理職の登用」ですが、校長の新規登用数は30人、副校長は2人、教頭は35人で、昨年度と比較しますと、校長は8人増、副校長は2人増、教頭は5人増となっています。

「4 再任用の配置」ですが、特例校長は小学校14人、中学校6人で、暫定再任用校長は小学校で0人、中学校で1人となっています。

また、「5 女性管理職数」は、校長66人、副校長・教頭35人の合計101人となり、昨年度と比較しますと、校長で2人増、副校長・教頭で3人減となっています。

「6 女性管理職の割合」は、今年度は29.6%となり、昨年度に比べ0.5ポイント減少となっています。

鶴岡教育長 審議に移りますが、質問等を含め、何かございますか。

磯 邊 委 員 ご説明ありがとうございました。女性管理職の数でお聞きしたいのですが、実数で言うと1人減っており、それで0.5ポイント減少しているということですが、この現象については、

何か分析はされていますでしょうか。

久保教育職員課長 女性管理職については、年２回実施をしている教育長・学校教育部長による面接や、教育職員課の管理主事面接を通して、各学校の状況等を把握するように進めております。

磯 邊 委 員 何か目標みたいなものは定めているのですか。

久保教育職員課長 特に目標値というものではなく、市としては課長補佐級以上を３０％以上にするという規定はあるのですが、教育委員会では管理職の割合について規定はございません。

鶴岡教育長 教務主任の数、教頭の数辺りの兼ね合いがあると思いますが、その辺りについて分析していることはありますか。

久保教育職員課長 割合としては、現在が恐らくピークの数になるのではないかと思います。というのも女性教頭の数が増えているという現状があります。

また、教務主任についても、女性の割合が増えているため、これから先女性の登用が多くなるということは難しいのではないかと思います。

鶴岡教育長 もう少し細かいことを言いますと、年数的には３０代後半から教務主任に昇格することが多いのですが、結婚・出産の年齢が少し上がってきており、その年齢のところがちょうど結婚や出産がすごく多くなっている状況であります。そのため、教務主任が減るということは教頭が減り、教頭が減るということは校長が減るという流れになります。

校長の割合が現在若干上がっているのは、今までは教頭に昇格できれば校長になれたのですが、今後は教頭になるには教務主任を経てなる方が多いので、そこが減ってしまっている関係で教頭が増えにくくなっていくというのが、今の教育職員課長の見通しかと思います。なので、現在がピークとはいえないのですが、教務主任の数とかを見ると、この先少し伸び悩んでしまうのではないかと思います。正直なところかもしれません。

報告事項（４）令和７年度末における市立高等学校の進路状況について

鶴岡教育長 報告事項（４）「令和７年度末における市立高等学校の進路状況について」、千葉高等学校長及び稲毛高等学校長、順に説明をお願いします。

藤井千葉高等学校長 本校の学年定員は、普通科７クラス２８０人、理数科１クラス４０人、合計８クラス３２０人となっております。

本校の大きな特徴として、文部科学省よりスーパーサイエンスハイスクール（SSH）という指定を受けていることが挙げられます。指定は5年間で1期としており、今年度は第Ⅳ期の最終年度、5年目にあたります。科学技術分野において国際的に活躍できる人材の育成を目標に、探究活動や大学・研究機関との連携など、特色ある教育活動を推進しております。

それでは、令和7年度末における本校の進路状況について、ご報告します。議案書7ページの令和7年度千葉市立千葉高等学校進路概要をご覧ください。

最初に、「1 進路決定状況」です。

全体としての進路決定率は82.5%で、前年度より4.2ポイント低下しております。現役で進路を決定できることが望ましい一方で、本校には浪人をしてでも第一志望校を目指すという強い意志を持った生徒も一定数おり、そのような挑戦する姿勢についても、引き続き学校として応援していきたいと考えております。

また、文理の割合については、令和7年度も理系志望者の方が多いという傾向が見られました。

「2 大学合格者数」については、資料をご覧ください。

なお、千葉大学の現役合格者数については、県立船橋高校に続き全国2位となっております。

続きまして、「3 千葉大学受験状況・合格状況」をご覧ください。

令和7年度も、例年とほぼ同様に121人の生徒が千葉大学に挑戦しました。特徴的な点としては、園芸学部を受験した生徒が16人と前年度より6人増加したこと、また、令和7年度に新たに協定を締結した情報・データサイエンス学部を受験した生徒が9人となり、昨年度より5人増加したことが挙げられます。本校は情報・データサイエンス学部のほか、千葉大学工学部とも協定を締結しており、大学訪問や研究室見学などの機会をいただいております。こうした連携の成果として、今後も情報・データサイエンス分野及び工学分野への志望者は安定していくものと期待しております。

「4 大学合格者数（学科別／現役）」については、資料をご覧ください。

普通科からも多くの生徒が理系に進んで、千葉大学工学部や東京理科大学等に進学しています。

続きまして、「5 国公立大学受験者数」を掲載しております。

近年は多くの学校において、総合型選抜や学校推薦型選抜を利用し、年内に進学先を決定したいと考える生徒・保護者が増えておりますが、そのような状況の中でも、本校では後期試験まで粘り強く挑戦する生徒が多い状況です。本校としては、入学できる大学ではなく、生徒一人一人が本当に行きたい大学を目指す進路指導を、今後も継続していきたいと考えております。

最後に、8 ページ、9 ページには入試合格者数一覧の内訳を掲載しております。

大野稲毛高等学校長 令和7年度稲毛高等学校の進路状況について、4月1日現在の状況について、説明します。

令和7年度の第3学年卒業生は、普通科が5クラス197人、国際教養科が1クラス38人で、計235人となっております。普通科5クラスのうち、2クラスは、附属中学校から進んだ内進生、3クラスは、高校入試を経て入学をした外進生です。

議案書10ページの「1 進路決定状況」をご覧ください。令和8年3月の卒業生は、合計235人で、このうち浪人・未定の24人を除く、211人の進路が決定し、進路決定率は89.8%でした。前年度は92.6%でしたので、浪人・未定者がやや増えたため、決定率はやや下がりました。

進路決定状況の内訳は、大学文系が139人、59.1%。大学理系が69人、29.4%です。文理の割合は、約2対1となっており、今年度も本校では引き続き文系の割合が高い傾向があります。浪人・未定者については、合格した大学はあるものの、進みたい大学には合格できず、来年再度挑戦する者が少なからずいます。また、その他のうち、1人は就職で、2人は専門学校へ進学をしています。

次に「2 大学入試合格者数」をご覧ください。

過去、海外の大学へ進学する者がおりましたが、今年は、国際教養科の生徒が1人、オーストラリアのクイーンズランド工科大学に合格となりました。クイーンズランド工科大学は総合大学で、ビジネスコースに進学を予定しています。

本校には海外の大学に進学を希望する生徒がいます。国際教養科の生徒に希望が多い傾向がありますが、普通科の生徒にも過去に合格者がでていました。

11 ページ、12 ページには入試合格者数一覧の内訳を掲載し

ております。

本校に入学した生徒は、グローバル・リーダーの育成という学校目標のもと、探究学習等を通じて、国際的な教養を身につけていきます。

また、学校目標を達成するために不可欠な、高い語学力育成のために、英語の授業において、全学年で少人数制クラス展開を実施し、全クラスで外国人講師による授業を実施しています。英検などの資格取得も盛んで、高校3年間の英語の技能の伸びは高く、大学進学にもプラスの影響を与えていると考えています。英検等の証明書類を、出願の際に提出する生徒も多くいます。

中等教育学校においても、令和5年度から導入したオンライン英会話や、5年次の全生徒オーストラリア語学研修といった具体的な取組みにより、確かな成果を上げられるよう努めています。

語学研修を契機に、海外の大学に興味・関心を持ち、進学を志す者もいます。英検等の資格取得も卒業までに準1級レベルの取得を目指しています。

また、今年度もカナダやオーストラリアの生徒との交互の交流を図り、国際交流行事も積極的に実施します。海外校も複数校受け入れる予定です。

こうした取組みを通じて、海外大学への進学を含め、グローバル・リーダーの育成を進めて参ります。

校舎の大規模改修工事もほぼ完了しました。新しい時代の教育に対応した環境のもとで、さらに質の高い主体的・対話的で深い学びの授業の実践を行い、引き続き、生徒の力を育成していきたいと考えています。

最後となりますが、稲毛国際中等教育学校は、中学校に相当する前期課程3年間と、高等学校に相当する後期課程3年間の計6年間で1つの学校として、一体的に教育を行うこととなります。本年4月に5期生が入学し、1期生は、後期課程5年生に進級しました。稲毛高等学校、また附属中学校に入学した生徒もこの3年生が最後となります。令和9年度には中等教育学校への移行も完了することとなります。今後しっかりと6年間の教育課程で計画的に学習を進めて参ります。

鶴岡教育長 審議に移りますが、質問等を含め、何かございますか。

大山委員 ご説明ありがとうございます。両校とも特色ある理系と文系の実力を発揮した進路の決定状況率だと思います。日頃先生

方が一生懸命生徒たちに教えてくださっているおかげだと思います。

千葉高校にお聞きしたいのですが、私立の早稲田大学の合格者が今年度増えているのですが、これは何か理由があるのでしょうか。お分かりになりましたら教えてください。

藤井千葉高等学校長 早稲田大学は確かに33人合格をいただきました。

詳しくは議案書9ページの入試合格者数一覧を見ていただければと思いますが、やはり文系の子がかなり頑張ったという結果が出ています。千葉高校はSSHを行っていて、理系に特色がある学校ではありますが、当然普通科の中には半分ほど文系の子がいて、その子たちが私立の中でもトップの方である早稲田大学を目指し、合格をいただいたということで、特に大きな分析等はしていませんが、文系が頑張った結果という認識をしております。

大 山 委 員 他の数字を見ても文系の方たちも素晴らしい成績なので、どうしてもSSHで理系が目立ってしまっていますが、ぜひともその辺りも吸い上げていただければと思います。

藤井千葉高等学校長 進路指導においては、文系の方も頑張らせるように動いていますので、ご指摘ありがとうございます。

杉 山 委 員 両校にお聞きしたいのですが、最近は感覚的に国公立大学と私立大学どちらの人気の高いのでしょうか。

藤井千葉高等学校長 千葉高校はご存じのとおり理系の子が半分ぐらいおり、非常に理系が頑張っている学校であります。理系の子は国公立大学を目指すパーセンテージが高いです。国公立にはそういった研究をしている大学が多いということもあり、千葉大学もそうですし、旧帝大と呼ばれるような日本のトップ大学が理系に存在しているため、理系の子が国公立を目指す割合が少し高いということになります。

私立大学は、いわゆる早慶、GMARCHと呼ばれるところに入れるように目標を持って取り組んでいるが多いのは間違いないと思います。

大野稲毛高等学校長 きちんと分析をしている訳ではありませんが、傾向としては私立大学の方が多いと思います。

学校数として、本校は千葉市内から通う子がやはり多いため、そうすると首都圏、当然分母としては私立大学の方が多いと思っています。

ただ、本校の中でも、明確に目的を持っている子は当然、国公立、旧帝大等ここで学びたいという子もいますので、そういう子はそちらの方の進学を目指しております。

大 濱 委 員 稲毛高校について、国際教養科があり、海外の大学を希望する方がいるということですが、5年度は海外の大学に6人進学をしていますが、7年度は1人ということで、海外の大学に進学している方が少ないのが現状だと思いますが、7年度は何人ぐらい受験しているのでしょうか。

大野稲毛高等学校長 稲毛高校の国際教養科ですが、海外の大学に進学を目指す生徒ばかりではありません。実数としては、ここに上がっている数程度になります。

ただ、海外の大学は入試の時期が異なりますので、結果が出ていない子が今年はまだ1人います。なので、その子が合格すると7年度は2人になるところですが、入試の時期がずれるのは子どもたちにとっては中々厳しいところかと思います。

決して海外に目を向けていないということではなく、グローバル・リーダーとして国際的な視点を持ちながら、学びを深めなさいという指導はしているため、大学は日本の大学であったとしても、学びは国際的な学び、それからこの先は調査できていませんが、グローバルな、国際的なところで活躍する卒業生がいるかもしれない、そうなるように私たちは日々、子どもたちに教育をしていきたいと考えております。

大 濱 委 員 海外の大学を希望するような子に対して、高校側としては何か特別な支援は行っていますか。

大野稲毛高等学校長 定期的に進路希望を取っているため、担任や進路指導の方で綿密に連絡を取って、海外の場合となると特殊な事情もあると思いますので、しっかりとサポートしながら、希望が実現できるように学校としては取り組んでおります。

藤井千葉高等学校長 蛇足ですが、例えば千葉大学は、入学した学生は学部関係なく、留学を義務付ける等、そういった大学が増えているので、日本の大学にいながら海外で学ぶことについて、日本の大学が本気で取り組み始めているということは補足させていただきます。

鶴岡教育長 両高校特色ある学校経営に、引き続き取り組んでいただきたいと思います。

議案第 24 号 千葉市子ども読書活動推進計画（第 5 次）の策定について

鶴岡教育長 次に、議決事項に係る審議に移ります。

議案第 24 号「千葉市子ども読書活動推進計画（第 5 次）の策定について」、中央図書館管理課長、説明をお願いします。

鈴木中央図書館管理課長 議案第 24 号「千葉市子ども読書活動推進計画（第 5 次）の策定について」ですが、本議案は、千葉市教育委員会組織規則第 8 条第 1 号の規定に基づき、議決を求めるものです。

議案書は 13 ページからとなりますが、説明につきましては参考資料を使ってご説明させていただきます。参考資料の 9 ページをお願いいたします。左上から順にご説明します。

まず、「第 4 次計画における子どもの読書活動に関する状況」についてですが、再掲を除く 99 の事業を実施しました。

隣の囲みをご覧ください。第 4 次計画では、取組の効果を測る目安として、4 つの目標値を設定しました。そのうち「1 か月間に読んだ本が 0 冊の児童生徒の割合」、いわゆる不読率について、小学生は 0.5 % という目標値を達成しておりますが、他の指標については、残念ながら達成が難しいと見込まれる状況です。

右手の囲みをご覧ください。「第 4 次計画における課題」を記載のとおり、3 点挙げております。

中央の矢印のあたりをご覧ください。第 5 次計画においては、第 4 次計画の基本方針は維持しつつ、こども基本法の基本理念に則り、「子どもの視点に立った読書活動の推進」を、また読書バリアフリー法の基本理念に則り、「多様な子どもたちの可能性を引き出すための読書環境の整備」を図ることが重要と考えております。

矢印の先、基本方針は、第 4 次計画と同じく「発達段階ごとの効果的な取組を推進し、読書への関心を高め、読書習慣を形成する」と、「読書環境の整備と連携体制の構築」を掲げております。

計画期間は国や千葉県の計画と同じく、概ね 5 年間といたします。

左下の囲みをご覧ください。5 次計画における「目標とする数値」です。2 つ目を除きまして、第 4 次計画での目標値をそのまま引き継いでおります。

2 つ目の児童生徒 1 人当たりの 1 か月間の平均読書冊数で

すが、こちらは新たな指標となります。家庭での読書習慣を測る目安として掲げていた、「1週間に1時間以上読書をした児童生徒の割合」から変更しました。本市の附属機関である図書館協議会でも指摘があり、「1週間に1時間以上読書をしたか」という設問では、子どもたちの回答が曖昧になる恐れもあり、冊数による読書量の方が比較の実態に近い回答が得られているのではないかと考え、指標として用いることにいたしました。

最後に「計画推進のための取組」です。まず「家庭における取組」としては、「読書手帳の配布」以下、3事業を掲載しております。「地域における取組」については、事業の多くを図書館が占める項目となります。「児童・青少年向け図書等の充実・計画的収集」のところに、「中高生向け電子書籍の充実」とフキダシを付けております。これは課題として挙げた「中学生以降の読書離れの防止」に関連して、隙間時間や移動時間であっても、電子書籍であれば気軽に読んでもらえるのではないかと考えるから強調しております。「こども・若者会議」においても「時間がない」、「部活や課題で時間が取れず図書館にも行けない」等の意見があり「電子書籍の貸出」を求める意見があり反映させたものであります。一方で、児童向けの書籍については、電子書籍より紙の書籍が望ましいというご意見もございます。紙の書籍を基本に据えつつ、電子書籍の利便性を補完的に活用することで、バランスを取りながら電子書籍サービスを充実させていきたいと考えております。

また、「多様な子どもたちの可能性を引き出すための読書環境の整備」という考え方に関連して、「読書バリアフリーに配慮した資料の充実とサービスの提供」にも、「『りんごの棚』の設置」とフキダシを付けております。注にもありますとおり、「りんごの棚」は、点字図書や音訳図書等を1か所に集めてコーナーを設置したり、展示したりするもので、子どもたちに対して、多様な本があり、多様な読書の方法が存在することを知らせるものです。千葉市でも中央図書館では設置済みです。今後は地区図書館でも展開して参りたいと考えております。「学校等における取組」では、「全校一斉読書活動等の推進」をはじめとする14事業を掲載しております。

下部の矢印「連携、普及啓発の推進など」では、学校と図書

館間の連携等、15事業を掲載しております。

参考資料の11ページをお願いします。続きまして、令和8年1月20日から2月20日まで実施しました、パブリックコメント手続の実施結果について報告します。

パブリックコメントでは、団体と個人を合わせて4者から延べ39件の意見を頂戴しました。39件のうち4件の意見から3か所を計画に反映させることとさせていただきたいと考えております。

まず、計画の第1章で、第4次計画における状況の検証を行っているのですが、その中の中学生以降の読書離れの防止の中で使用している千葉県の第5次計画から引用したアンケートの集計表について、サンプルサイズを示す「『n』の説明がほしい」というご意見がありましたので、nが回答者数を意味する旨の注記を加えました。

次に、図書館の役割について説明している箇所について、「第4次計画にあった『図書館法及び図書館の設置及び運営上の望ましい基準に基づき』の語句を追記してほしい」というご意見がございました。ご意見のとおり文言を追記しました。

12ページをお願いします。次に、「推薦図書等の紹介」という事業項目について、当初「子どもの読書活動に関する理解と普及」という項目に分類していたのですが、「地域における取組」のうち「図書館の役割」という別項目に位置付ける方が適切ではないか、とのご指摘がございました。ご指摘のとおり、配置を修正しました。

4点目ですが、第4次計画にありました「外国人市民の子ども向けサービス」については、大見出しである事業項目を「推薦図書等の紹介」としてまとめておりましたが、国及び千葉県の第5次計画の表現を踏まえて「日本語を母語としない子ども向けサービス」に修正することとしました。

最後に、今後のスケジュールですが、本日議決をいただけたら、4月中に計画及びパブリックコメント結果をホームページで公表する予定で進めて参ります。

鶴岡教育長 審議に移りますが、質問等を含め、何かございますか。

小西委員 ご説明ありがとうございます。2点質問があります。

1点目が、議案書20ページの1か月間に読んだ本が0冊

の児童生徒の割合について、令和6年度の中学生の数値が急激に上がっているのがすごく気になりました。この点について、何か原因や背景を分析されているのであれば、教えていただければと思います。

2点目が、議案書45ページ以降に、こども・若者会議の意見が書かれており、非常にこどもらしい率直な意見が書かれていて参考になるなどと思いながら読んでいたのですが、46ページの本を読まない理由の中に、朝読書の時間でも、他にやらなければいけないことがあり、あまり読まないという回答があり、私は朝読書の時間は読書をする時間だと思っていたのですが、何か他のことをやっているような学校があるかどうか教えていただければと思います。

鈴木中央図書館管理課長 1点目の数値が上がっている点については、統計の取り方が各年度抽出で行っており、抽出した学校によっては、ばらつきが出てくるため、令和6年度は偶然数値が上がってしまったのではないかと思います。

2点目の朝読書の時間に、ほかにやらなければいけないことがあることについては、こども・若者会議で自由な意見を出したのになりますので、正確には実際になにをやらなければいけなかったのかは分からない状況ですが、朝読書以外にも朝学習の時間には、例えばギガタブを使用してキーボード入力をする等、他のことをやっていることは実態としてあると思います。

川島教育指導課長 補足させていただきます。

1点目については、昨年度から1か月間での調査を行うようになりましたので、それまでの2週間に比べると、より実態に迫ったものになっていると思います。

2点目については、手元にある調査結果で、日常の読書活動として1時間目の前に朝読書をしている学校の割合という点では、中学校は全校で実施をしております。また、小学校でも約8割がそのような読書活動を進めている中で、読み聞かせやギガタブでの情報確認等々でも活用しております。場合によっては、先ほどキーボードという発言もありましたが、開府900年ということもあるので、そういったことを共有する時間として活用することもあるかと思います。

小西委員 1点目については、より実態に迫った数値というところで

良いと思いますが、目標数値が0.7になっているので、目標数値も実態に伴った数値に合わせて見直した方が分かりやすいと思いました。

2点目はよく理解できました。ただ、千葉市の朝読書の時間は千葉市の素晴らしい取組みの1つだと思っていますので、その時間に他の活動をする場合も、読書と同様、子ども達が深く考えられるような時間を取れるよう、現場においても引き続きお願いできればと思います。

磯 邊 委 員 ご説明ありがとうございます。1点目は私も小西委員と同様で、不読率が4.6%、5%に近いところと、20人に1人は月に1冊の本を読んでいない、これが実態に迫っているデータだとしたら、危機的ではないかと思います。午前中にスクールカウンセラー先の学校の図書館指導員に話を聞いたら、小西委員と同様に、朝読書がとても効果的で誇れる制度であるというのが、私の中では響いた言葉でしたが、それでも20人に1人も読んでいない実態があるというこの乖離は、少し深刻ではないかと思って聞いていました。

2点目は質問ですが、外国にルーツを持つ子どもたちの書籍の充実について、特に学校図書館などでは、ほとんど見かけないと思いますが、この辺りはどのように判断や分析、計画されているのか教えていただければと思います。

鈴木中央図書館管理課長 外国にルーツを持つ子どもに対してですが、図書館の話にはなりますが、図書館では外国語の資料の充実に努めており、外国語のお話会等を行ったりしています。外国語の書籍は全部で22,000冊ほどあり、児童書としては4,300冊ほどあります。やはり英語、韓国・朝鮮語、中国語が多いのですが、ベトナム語等の資料も所有しております。

全言語満遍なく充実させるのは予算の制約もありますので、今後はやさしく分かりやすい日本語で書かれた資料や、イラスト付きの資料を充実させることで補っていきたいと考えております。

鶴岡教育長 学校の方の実態はいかがでしょうか。

川島教育指導課長 1点目の不読率についてですが、情報提供として、令和7年度の全国の小学校の不読率が9.6%、中学校が24.2%という状況であるため、千葉市は極めて良好な状況であります。地道に積み重ねていきたいと思っています。

2点目については、当然、図書に使える予算は限られていますので、制度として導入したのが、カーリル学校図書館支援プログラムというものでして、どこの学校にどういう本があるのかを、子どもたちが自分でギガタブを使って検索ができる制度になります。それを先生に相談すると、ここの小学校にある、ここの中学校にあるということで借りることができます。ただ、借りるといっても本が回ってくるわけではないので、先生方が貸し借りに対応するという形になりますが、そうしたシステムを使いながら、本を共有していくなど、色々な支援ができるのではないかと考えています。

川名学校教育部長 1例ですが、外国にルーツを持つ子どもは、美浜区が多いのですが、多い学校の図書館に行くとそういった外国に繋がる図書を置くような傾向があります。例えば高浜第一小学校は、外国にルーツを持つ子どもが非常に多い学校ですが、その子どもたちが図書を読めるような体制を整えていく、そのために本市では学校図書館指導員が全校に配置されています。各学校の実態を踏まえて図書の購入計画等もされているため、そうした学校には外国に繋がる図書が多いと認識しています。

磯 邊 委 員 ありがとうございます。臨床場面で時々出会うのがダブルリミテッドといって、第1言語も第2言語もできなくて学力が低下しているのですが、第2言語の日本語を教える前に第1言語が定着していないので、日本語が乗っからない子どもがいます。そうすると、外国にルーツを持つ子どもたちの中には、マザータングが外国語である子どもたちがいて、そこをきちんとトレーニングしないと学力が上がってこないため、日本語のやさしい本を導入することと同じぐらい、母語をきちんとトレーニングして、その興味関心を満たしていくことも大事だと思いますので、こちらもご配慮いただきたいと思います。

鶴岡教育長 誤解があつてはいけないと思いますので、確認の意味で言いますが、先ほど教育指導課長が全国に比べるとという発言がありましたが、全国に比べてではなく、千葉市の率が上がったのだからその部分は抽出だとはいえ、しっかりと見極める必要があると思っていますので、その部分は今後しっかりと検討させていただければと思っています。

大 濱 委 員 ご説明ありがとうございます。参考資料の9ページに目標

とする数値がありますが、この2番目の児童生徒1人当たりの1か月間の平均読書冊数について、小学生23冊というのは、ほとんど毎日1冊読むということなのではないでしょうか。

鈴木中央図書館管理課長 小学生ですが、読む本の厚さも異なりますので、特に低学年ですと簡単に読める本が多いので、小学生と中学生の差はそういうところからきています。

大 濱 委 員 それにしても、1日1冊は中々多いとは思いますが。

鶴岡教育長 1日で2、3冊読んでしまいます。

大 濱 委 員 ただ、小学生と書いてありますが、1年生と6年生では全然違うと思いますが、その辺はどうなのでしょう。

鈴木中央図書館管理課長 実態としては、小学校1年生が4冊ぐらい、小学校6年生が1冊ぐらいだと思いますが、計画としては今までも小学生、中学生という見方をしておりまして、国や県等含めて作成しておりますので、そこまで細かくは分類できないと考えております。

大 濱 委 員 そうすると1年生は1日に3冊も4冊も読んじゃうということですね。6年生はそこまでいかないと思うので、平均をもう少し検討していただければと思います。

磯 邊 委 員 診察の待合室に児童書をたくさん置いていただき、待っている間に読んでもらうのはどうでしょうか。

鶴岡教育長 建設的な意見ありがとうございます。

大 濱 委 員 コロナ流行前は本を置いていたのですが、コロナが流行したときに一切本を置くのを止めてしまったので、これからどうするか検討してみます。

鶴岡教育長 小学生を中心に好きな本の1つに日本の歴史というのがあるって、歴史を学べる本なので読書率に入るとは思いますが、漫画になります。

スマホを見てても、文字だけの小説を読んでいる人もいますし、漫画チックな小説を読んでいる人もいますし、電子書籍が新たに入ってきたため、この辺りの線引きが難しいと思いますが、そうした検討事項はありますでしょうか。

佐久間中央図書館長 本を読むという入口としては、漫画も有効な手段だと思います。最近ですと、漫画のノベライズ本が出てきて、これが一番子どもたちには響くところかなと思いますので、あくまで入口として、親しみやすさという点では有効だと考えております。漫画については、絵だけを追っていただけだと想像力

等はなかなか養えないと思いますが、自分で想像できる余白があるものとして、ライトノベルがあり、漫画に近いですが、文字がメインになっていることもあるので、そういった軽読書というものを活用していくことは重要だと考えています。今のところ、この指標になっている中で漫画を含めることは難しいという状況ですが、線引きが今話をした漫画のノベライズ本のように境界が曖昧になってきてるとするのはご指摘としてあります。

鶴岡教育長 率を上げるためにやるわけではないので、何か親しみやすいところから入っていくことも大事だと思いますので、そういう工夫もあっていいと思いました。

鶴岡教育長 ご質問もないようですので、議案第24号「千葉市子ども読書活動推進計画（第5次）の策定について」を原案どおり可決したいと考えますが、いかがでしょうか。

（「異議なし」という声あり）

鶴岡教育長 ご異議ないようですので、原案どおり可決とします。

以上で公開審議案件の審議は終了しました。委員の皆さんから「その他」としてご意見、ご質問等ありますでしょうか。

小西委員 情報提供になりますが、富山県弁護士会が、性自認や性的指向に悩む生徒に関する問題についてのアンケートを、富山県内の全ての高校に対して実施をして、そのアンケート結果の報告書が富山県弁護士会のホームページで公表されています。

私も一読したのですが、性的マイノリティの子に対して学校がどういった配慮をしているかどうか等がまとめられているのですが、富山県と比較して、千葉市はとても進んでいるなと嬉しく思いました。報告書の中には、学校の先生がどのような点に気を付けるべきとか学校でこうした配慮をすると良いのではないかとといったヒントが多く載っていたので、お時間があれば一読していただければと思い、情報提供をさせていただきます。

磯邊委員 千葉市のガイドブックはすごくよく出来ていて、私も学校で使わせていただいているのですが、ぜひそれも参考にさせていただきたいと思います。また、小中学生になると少し違い、日々アップデートしていかないといけないので、学びたいと思います。

鶴岡教育長 情報提供いただきありがとうございました。

8 その他

第5回定例会は、5月22日 金曜日 午後2時00分からとした。

9 閉会

鶴岡教育長より閉会を宣言